

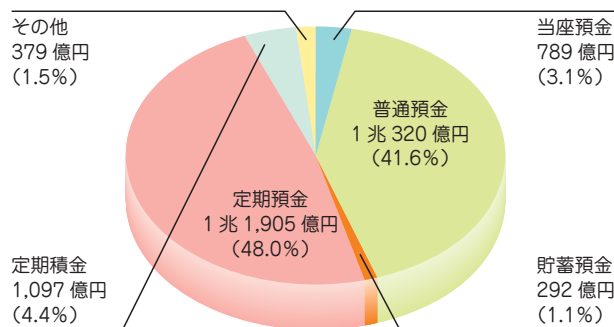
平素は城北信用金庫をお引き立て賜りまして誠にありがとうございます。
 本パンフレットは、平成30年度上半期の事業概況をご報告し、皆さまに弊金庫についてのご理解を一層深めていただくために作成いたしました。ぜひご覧賜りますようお願い申し上げます。
 城北信用金庫は、今後とも皆さまに安心してお取引引きいただけるよう努めてまいります。
 より一層のご支援を賜りますよう、役職員一同、心よりお願い申し上げます。

平成30年度上半期の業績概況

預積金残高は2兆4,785億円、貸出金残高は1兆2,244億円となりました。

平成30年9月末の預積金残高は2兆4,785億円(3月末対比408億円増加)、貸出金残高は1兆2,244億円(同215億円増加)となりました。小口のご契約を中心に、広く地域のお客さまにお取引いただきました結果、預積金・貸出金とも堅調に推移しております。また、国債・証券投資信託・個人年金保険などの預かり資産残高は、366億円(※)(同8億円増加)となりました。 ※9月末時価換算

●預積金残高の科目別内訳(平成30年9月末)

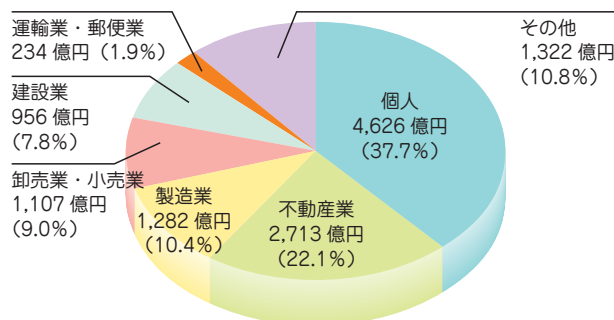


業務純益は34億円、経常利益は36億円、当期純利益は25億円となりました。

低金利が続き厳しい収益環境となりましたが、効率的な業務運営に努めた結果、上半期は業務純益(※)34億円、経常利益36億円、当期純利益25億円を計上いたしました。

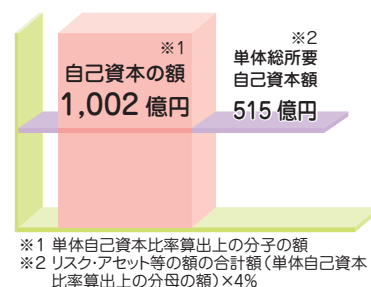
※利息・各種手数料・有価証券等の運用損益など金融機関本来の営業活動によって得られた利益

●貸出金残高の業種別内訳(平成30年9月末)



1,002億円の自己資本を備えております。

9月末の自己資本の額(※1)は1,002億円(3月末対比24億円増加)に、また貸出金残高の伸びを主因として、リスク・アセット等の額の合計額は1兆2,881億円(同405億円増加)となり、自己資本比率は7.77%となりました。自己資本の額は、総所要自己資本額(リスク・アセットからみた当金庫が備えるべき自己資本の額(※2))515億円を大きく上回っており、「健全で問題のない金融機関」の国内基準を十分に満たしております。(いずれも単体ベース)



きめ細かいコンサルティングでお取引先の経営改善・再生支援に努めた結果、金融再生法上の不良債権比率は4.12%となりました。

金融再生法上の不良債権は511億円、不良債権比率は4.12%となりました。なお、これらの債権については、担保・保証などによる保全のほか相応の貸倒引当金も計上しております。

有価証券残高は7,668億円となりました。運用にあたっては、適切なリスク管理に努めています。

9月末の有価証券残高は7,668億円となりました。種類別では、国債(21.2%)・地方債(15.9%)などの国内債券が約7割を占めています。なお、9月末の評価損益は全体で187億円の評価益となりました。